

337号



2017

8月

葉月



剣山 劔沢小屋より

# 目次

---

## 山行案内■

- ・ 赤ナメラ谷（小瀬川支流赤滑川） 3
- ・ 細見谷 3

## 山行報告■

- ・ 教育ステップアップ講座Ⅲ 4
- ・ 白山 5
- ・ 竜ヶ岳・藤原岳 8
- ・ 北岳バットレス 10

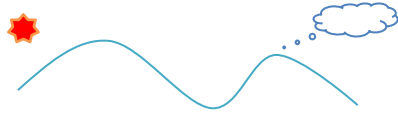
■バリエーション通信 12

■教育部門通信 NO. 4 12

■2017年 第4回 定例集会議事録 14

■2017年 第4回 運営委員会議事録 15

# 山行案内



9月教育講座Ⅳ 沢登り入門実践山行

## 赤ナメラ谷 (小瀬川支流赤滑川)

- 【期 日】 9月9日 (土) 【山 域】 鬼が城山  
 【集合場所】 宮内串戸駅 【集合時間】 8:00  
 【交通手段】 自家用車 【参加費用】 会規定に依る  
 【行 程】 宮内串戸 8:10~スパ羅漢 (道の駅) 9:00~9:30 赤ナメラ入渓~12:00 赤ナメラ分岐 (昼食) 13:00~飯山分岐~14:00 赤ナメラ分岐林道~15:00 スパ羅漢 (入浴) ~17:00 宮内串戸  
 【装 備】 沢靴、ヘルメット、ハーネス、カラビナ、スリング、着替え、昼食、飲料水、防水袋、下山靴、地図、コンパス、ヘッドランプ、沢登りに適した服装、装備  
 【地 図】 1/25,000 宇佐郷 【リーダー】 CL 土屋  
 【申し込み先】 土屋 090-3171-1903 tutiy-mv@sky.megaegg.ne.jp  
 【申し込み期限】 **9月2日**  
 【山行の呼びかけ】 赤い滑床と小滝の続く初心者向けの明るい沢歩きですのでぜひ体験してみてください、暑い夏の楽しみが広がると思います。※専用装備等ありますが、一部なくても対応可能ですのでご相談ください

8月バリエーション例会山行

## 細見谷

- 【期 日】 8月20日 (日) 【山 域】 廿日市市吉和  
 【集合場所】 JR 宮内串戸駅 【集合時間】 7時30分  
 【交通手段】 自家用車 (提供者求む) 【参加費用】 会規約実費  
 【行 程】 宮内串戸駅 7:30~細見谷 立野キャンプ場 9:00~入渓 9:20 ~イカダ滝 11:30 ~オオリュウズ 12:30 (昼食) ~ ロクロ谷分岐 14:30~ ロクロ谷終点・林道合流 16:00 ~17:00~宮内串戸駅 18:30  
 【装 備】 クライミング装備1式、沢靴、服装 (ヤブコギ考慮) 昼食、飲料水 (多め)、非常食、雨具、地図、コンパス、ヘッドライト、着替え  
 【地 図】 1/25,000 野入  
 【申 込 先】 CL 安達忠雄まで t1t07mf1@ene.megaegg.ne.jp 携帯 090-5376-7050  
 【申込期限】 **8月13日 (日)** まで 【参加条件】 基金5口以上クライミング基礎習得者  
 【山行の呼びかけ】 広島を代表する渓谷で淵の泳ぎは必須です。濡れても体温を逃がさないよう工夫を各自でしてください。時間・沢の状況により登山道 (林道) を使い、立野方面に引き返します。

## 活動報告

### 教育ステップアップ講座Ⅲ

7月2日（日）廿日市市串戸市民センターに於いて《山のデジタル講座》が参加者8名講師1名にて行われました。デジタル講座と云うことで参加者には全員がパソコン持参又スマートフォン、及びGPSガーミンも一部持ち込みで始まりました。

はじめに

山岳遭難の原因は「道迷い」が4割以上。道迷いの防止、対策・道迷いを起こさない方法とは「現在地を知る」読図によるクロスベアリングなどであるが、しかし迷った時に色々な条件下の中で確実な現在地を知ることがはむつかしい、毎日新聞の抜粋資料からの説明がありました。そんな時、地図、コンパス及びGPS（スマホ、ガーミン等のデジタル機器）の活用で道迷いの「新3種の神器」。

#### 続いて本題のデジタル機器の活用

##### 1. 登山ルートの手入れ方法

- ・自分や知人の保管しているログ、GPXファイルを利用する。
- ・ヤマレコ等のネットサイトから入手（ダウンロード）
- ・カシミール3Dにて新規ルートの作成
- ・新規登山ルートの作成  
(カシミール3D利用)

カシミール3Dの地図から山行予定の登山ルートをマウス操作をしながら作成していきます、完成したらGPXファイルとして保存します。

※破線の無いバリエーション（ヤブ漕ぎ）等を歩くと時には安心できます。

2. スマートホン、ガーミンへのアップロード、1で入手準備したものをスマートホン、ガーミン等に転送、読み込みし山行当日持って行きコースを外れた場合などすぐに確認、コース修正ができる。
3. スマートフォンでの登山ナビアプリ

##### **Geographica** (ジオグラフィカ)

アイホーン、アンドロイド

##### **FieldAccess** (フィールド アクセス)

アイホーン

県連の登山時報にも掲載されていますが、他にもいくつかのアプリがあります。

##### 4. ガーミンとスマートホンの比較

ガーミン…厳しい条件（ヤブ漕ぎ、沢、夜間、冬山）また天気の急変（雨、濃霧、ホワイトアウト）対応可能（水濡れ、氷点下、電波、電池）

スマートホンでは上記のような状況下では使用もむつかしくなる為注意する必要があります。

##### 5. カメラ、スマホで撮影した写真の転送、共有（ブログへのアップ）

パソコンに入っている「アイクラウド」を利用してアイホーンの「iCloud Drive」を利用してアイホーンで撮影した写真、動画はiCloudフォトライブラリーから自動的にダウンロードされすぐに確認でき

たり共有することもできます。

## 6. One Drive

カメラで撮影した写真等をアップロード、共有できる。

## 7. Dropbox

パソコンに保存した資料（PDF）等をパソコン、スマホに作成して都度確認したい資料を入れておくとスマホでいつでも確認できる（共有）

各項目、各自設定がうまくいかなかったり個別操作、個別指導していただいたりしましたがなかなか全部を身につけることはむづかしく4時終了予定が5時終了しました、出来なかった所等はテキストを持ち帰り再度の挑戦、復習になりました。

\*我々も長時間でくたびれましたが、吉岡講師には終日大変お疲れ様でした、有難うございました。

[▲目次へ](#)

# 白山 山行記録

## その①

### ■ 7月14日（金）

梅雨がなかなか明ける兆候もない7月中旬に行って来ました。それは弾丸登山のようでした。昨年の事があるからドタキャンも十分覚悟して。マークXに乗って、一路高速で北陸へ向かう。仕事終えたばかりの3交代での運転は確かにキツイ。深夜0時からハンドルを受け継ぎ、一番眠い時間帯に北陸道を北上する。



御前峰へ向かう

### ■ 7月15日（土）

市ノ瀬に車は着く。3時半頃だった。頭が痛く非常に眠い。仮眠の時間も許されない。ついに白山へ来たのだと思う。始発のバス停には長蛇の列。さすがに3連休の山である。最初の急登がきつい尾根へ出て、観光新道を登り、高山植物を見る。

青い空が顔を出し前途洋々、ピッチを上げて別当坂分岐へ。ササユリとニッコウキスゲのコラボ、見事に咲き誇り美しい。お花畑の出現だ。ゴゼンタチバナ、アカモノ、クルマユリ、カラマツソウ、ハクサンフウロ、イワカガミ…花に見とれて写真を撮りながら時間



雪溪の中に船現る！

をかけて歩く。夏の陽射しは暑い。Mがバテ始め足取りが遅い。初日の苦しさを味わうことになる。



延命水周辺のお花畑



ハクサンチドリ



麗しのクロユリ

予定より1時間遅れて殿ヶ池避難小屋へ。小屋の前に残った雪溪の脇にショウジョバカマの群生があり、素晴らしい。行動食のソーセージと豆を食い熱源とする。「馬のタテガミ」辺りで、私も調子を落としてバテ気味。下には南竜山荘の小屋とテン場が見える。「黒ボコ岩」に着く。岩の上に登り、はしゃぐ高校生たち。弥陀ヶ原の階段を30分ほど登ると、白山室堂小屋へ到着。多くの人で賑わう。Mを待って、Yと冷えたビールで乾杯。夏空ではないが、晴れている。ガスが次第にあがってきている。

小屋は700名の定員、予約でほぼ満席。並んで宿の受付を済ませて午後の行動とする。白山奥宮へお参りをし、安全登山を願う。白山は立山、富士と並んで日本三大霊山の一つである。花の山という印象が強いが、実は霊験多い霊山なのだ。道の脇にはお目当ての「クロユリ」が、今が盛りと小さな黒い花を咲かせている。ああ！何と愛らしいのか！籐の入った黒い花びら、雄しべの黄色、下向き、すべてが良い（匂いだけは×）。

駆け上がれば御前峰山頂、標高2670M、今回の最高地点。残念ながら期待していたアルプスの眺望はダメ。ごつごつした岩が重なる山頂、白山神社の祠。奥には雪溪と池が連なる神秘的な景色が飛び込んでくる。素晴らしい、この世のものとは思えない世界だ。お池巡りへ向かう。御宝庫からの急坂を慎重に下りれば、涼しい別世界。紺屋ヶ池、油ヶ池

は不思議なコバルトブルーで楽しましてくれる。その奥の翠ヶ池には、崩れた雪溪の塊が船のように見える素敵な池だった。断念した大汝峰2684mへは何人かが登頂に歩いている。水の多い「血の池」周辺は静かな気持ちの良い所である。ツガザクラが咲き乱れている。

何度かスプーンカットした雪溪を豪快に渡り、室堂へ。宿に戻ったら夕食の時間を待たずに、生ビール800円で乾杯。すでに酔いが回ってきた。順番待ちの17時の夕食を広い食堂で忙しく食う。ハンバーグとみそ汁の献立。二人は缶ビールをさらに飲む。汁と飯がお代わり自由なのだけが良い。夕食後はお気に入りの場所で・・・さらに酒、夕日を見ようと山を見るもガスって駄目。花の見所があるらしい。しかしもうフラフラ。小屋に戻る。爆睡Z z z z z

記■藤井

●行動記録は次項につづく



[▲目次へ](#)

## ■ 7月16日（日）曇り一時雨

【コースタイム】白山室堂(6:43)→黒ボコ岩(6:30)→甚之助避難小屋(8:37)→中飯場(10:44)→別当出合(11:36~11:50)→市ノ瀬(12:06)

4時過ぎに起床、御前荘から外に出てみると展望所にはご来光を待っている人達が20~30人いる。昨夜見た天気予報では曇りのち雨、ご来光は無理だと思っていた。カメラを取りに急いで部屋に帰り展望所へ行く。雲海の向こうに御嶽山が浮かんで見える。しかし直ぐにガスが掛かってきて何も見えなくなる。振り返って御前峰をみると、昨日は素晴らしい山容を見せていたのに今日はガスの中、雨が降らなければ良いかと頭をよぎる。

室堂ビジターセンターの外にまで朝食待ちの人たちが並んでいる。やはり3連休は人が多い。

10時ごろから雨が降りだすとの予報から、朝食後、早めに室堂を立つことにする。

下山コースは当初予定の展望歩道→石徹白道→別山→市ノ瀬を変更し砂防新道を下ることにする。コースタイムは3時間余り、時間がたっぷりあることから花を愛で、写真を撮りながらのんびりと山歩きを楽しむことで皆が一致。

まず、五葉坂を下り弥陀ヶ原へ霧に覆われ幻想的な雰囲気漂っている中、ツガザクラ、ハクサンコザクラ、ミヤマキンバイ等の高山植物が映える。次にガスにかすむ黒ボコ岩から砂防新道に入り延命水を味あう。周りはミヤマキンポウゲ、シナノキンバイ、ダイモンジソウの花が咲き乱れていて美しい。

更に下っていくとキヌガサソウとサンカヨウの群落が、二つの花をワンフレームの中に撮ることが出来ることに感動する。その後、甚之助避難小屋で一休憩し中飯場へ向かう。この区間殆ど花はなくただひたすら下るのみ、



キヌガサソウとサンカヨウ



ガスにかすむ黒ぼこ岩



白峰温泉の鮎の塩焼き



左手に不動滝を見ながら更に下るとやがて前方につり橋が見え始めつり橋を渡

り切ると別当出合に辿り着く。時計をみると11時36分、コースタイム3時間のところを5時間かけて下りたことになる。本当ののんびりと山歩きを楽しんだ一日でした。

記 ■ 吉岡

[▲目次へ](#)

## 竜ヶ岳・藤原岳

(鈴鹿セブンマウンテン)

【日 時】7月15日(土)～16日(日)

【参加者】会社OB 1名、清家 計2名

【コースタイム】

7/15(土) 大阪市内～第二京阪～名神高速～八日市IC～国道421号～宇賀溪キャンプ場～宇賀溪観光案内所～ホタガ谷出合(金山尾根)～竜ヶ岳～遠足尾根～宇賀溪観光案内所～六石高原ホテル

7/16(日) 六石高原ホテル～藤原岳駐車場～大貝戸道～藤原岳山荘～藤原岳～大貝戸道～藤原岳駐車場～阿下喜温泉あじさいの里～帰阪



皆さん、こんにちは。僕も大阪に転勤になり、5年目になりました。毎月、比良山系や六甲山系等、関西近郊の山には登っておりますが、少し遠征した時に「まど」へ記録を送っています。で、今回は三重県の「鈴鹿セブンマウンテン」と呼ばれる7つの内の竜ヶ岳・藤原岳の2つに行ってきました。「鈴鹿セブンマウンテン」とは、昭和39年に近鉄が開催した登山大会で対象となった7つの山々の総称である。この山の北側から順番に行こうということで、初日は竜ヶ岳(1,099m)に。鈴鹿山脈の中央部に位置する山で、山頂は360度の展望という事で、楽しみ楽

しみ。

7/15 6:20 大阪を出発し8:15に宇賀溪キャンプ場に到着。登山届と入山料含めた駐車料金500円を支払い、早速スタート。登りは沢や岩がある金山尾根、下りは少々長い遠足尾根を選択。林道から登山道へ入りずっと登り。朝に雨が降ったようで、山道が濡れている。少し広い所で小休止。その後895m地点、展望が広がる予定が、ガスで何も見えない。10:50広尾根に出て、少し歩きやすくなったものの、急登が続く。そして11:15 竜ヶ岳山頂着。本来なら琵琶湖から乗鞍岳、白山迄見えたはずの







展望が真っ白のガスで何も見えず。ご褒美無しである。それを笑っているのか、なぜかトンボがいやほど飛んでいる。カンカン照りではないが、すごく暑くて汗びっしょりである。それと、記念写真を撮る時に初めて分かったのだが、同行者のシャツの左下部分が真っ赤に染まっており、どうやら「ヤマビル」にやられたようで、血に染まっていた。ヤマビルの特徴として、噛まれた時に痛みがないので、全く分からない、それと血が止まらないなど、その通りだった。こういう僕も、下山後のお風呂で、右足ふくらはぎから血がずっと流れているのに気が付いた。傷口や症状からヤマビルのしわざである。

下山は遠足尾根に向かう。この周辺ではこのルートが最も距離が長い。その分ゆるやかだと思いきや、九十九折の急な坂や、ゴツゴツ岩が現れ、歩きづらい箇所が何度もあった。ガレ場、ヤセ尾根もあり、注意しながら歩く。下山地点近くの沢では家族連れ、友人グループのキャンプ、川遊びで大賑わいだった。林道沿いに竜雲水？だったか、水場があり、この水が冷たくておいしく、水量も多くて、とても良かった。下山後はコンビニ経由で本日のお宿へ直行した。

7/16 (日) 朝、どんよりとした曇り空で、雨は降っていない。今日は藤原岳だ。滋賀県との境目に位置している。関西百名山、花の百名山に選定されている。観光用と登山

口用の駐車場があり、ほぼ間違わずに登山口に着く。今日は「大貝戸ルート」を目指す。朝、テレビで栃木県の山中で男性がクマに襲われたニュースがあり、この登山口にもクマ出没、クマ注意の張り紙が多数あって、何かいやな気持ちしながら歩いていく。昨夜調子に乗って少々飲み過ぎたか、何となくしんどい。7:50 四合目で水分補給。すでに汗だく。本日最高気温 35 度。三合目、四合目を過ぎていくと、さすがに体も慣れてきて楽になってきた。8:40 七合目。樹林帯の中、小休止。三重県山岳連盟の方々が数人おられた。黄色い連盟の腕章を付けていた。歩く道で少し大きめの石があれば、それを取り除き、簡単な山道の整備をしながら歩かれていた。一番元気のいいおじさんはトランシーバーを携帯していた。

八合目は表道と大貝戸道の合流地点であるが、基本的には歩きやすいルートではある。順調に高度を上げていくが、九合目から避難小屋迄が長い急登に変わり、ここで少しバテる人が多い。この場所でひと息入れる人も多く、あと頂上までは約 20 分の稜線歩きだ。なだらかな稜線と少しの登りで、10:15 藤原岳山頂着 (1,120m)。展望はこれまたガスガスで、周りな～んにも見えず。2日連続ご褒美無しだ。「日頃の行いかな・・・」と、冷やかされる。簡単にお昼を済ませ、下山へ。雨で滑りやすくなった道を駆け下り



る。そして13時頃、無事駐車場へ下山完了。  
靴洗い場もあり、早速ドロで汚れた靴を洗う。  
汗まみれの体を近くの温泉で流し、スッキリ  
した後、一路大阪へ。夕方無事に帰宅しまし

た。  
「鈴鹿マウンテン」、あと5つの達成が出来  
ればいいなと思っております。

記録■清家 弘一

[▲目次へ](#)

7月バリエーション定例 県連登山フリーバス利用

## 北岳バットレス…の、はずが

【期 日】7月27日(木)～7月31日(月)

【参加者】CL安達・小形・土屋/S L高見沢・吉田

【コース・タイム】

7/27 広島駅発(7:30)→芦安温泉(16:40)→温泉ロッジ(17:15)

7/28 乗り合いタクシー→広河原(8:40)→白根御池小屋(11:07=11:40)→大樺沢二股(11:58)  
→バットレス取り付き(13:35)→白根御池小屋(15:00)

7/29 小屋発(7:25)→大樺沢二股→八本歯コル(9:45)→北岳山頂(11:10)→北岳肩の小屋  
(12:00)

7/30 小屋発(5:25)→草スベリ→御池小屋(6:35)→広河原(8:45)→乗り合いバス(9:40+)→  
芦安温泉ロッジ発(11:15=12:00)→甲府駅(12:55)→バス乗車(18:00)

7/31 広島駅(6:00～)順次下車s



世界標準的身長の八頭身には前後が少々狭いバスの座席に耐え、伊那谷の向こうに広がる南アルプスの展望が楽しめる・・・はずだったが、下界は晴れていても稜線は厚い雲の中だった。下車した芦安温泉バス停近くから温泉ロッジまで30分歩いて本日の徒歩終了。温泉でゆっくり身体の伸ばした初日。

ロッジに着替えなどの荷物を預かってもらい、7時40分乗り合いタクシーに乗車。広河原からいよいよ山道。しばらく急坂だが急ぐことはない。それでも後ろから賑やかなハングルが飛び交う団体が迫るので追われて先へ。白根御池小屋に登攀道具を置き、軽いザックを背にバットレス偵察へ。C沢を過ぎて尾根の踏み跡分岐からは空身で登る。鬱陶しい灌木を抜けると草原と雪溪の切れ端の向こうに白いバットレスが迫る。ただし見渡せるのは基部の高さ数十メートルまでで、それ以上は白い煙幕に隠れ、威圧感は感じなかった。明日の天候の安定を願って御池小屋へ戻った。

小屋のTVで流れる気象情報をもとに思案投げ首。午前中はまだしも午後からは降雨の可能性が非常に高い。蒸し暑い床の夜半からの雨音にバットレス登攀中止は全員納得の判断だ。朝5時ごろまで雨。北岳登頂をめざして雨の止んだころに出発。八本歯コルまでゆっくりと歩いてガスの中で昼食大休止。ちょっとだけガスが流れて向かいの八本歯の頭と稜線が見えた。その後は北岳山頂経由で肩の小屋まで展望は望むべくもなかった。そんな中でも岩場を縁取る花の彩りとお花畑には、いまだ名を憶えられないながら感嘆の連続だった。肩の小屋に入る前から降雨がつづき、夕刻まで宿泊者は途切れず、寝床はドンドン密集し消灯前には食卓がとうとう寝室に変身するまでに押し込まれた。



濃いガスの中に雨が降る。幸い風は強くないので寒さは感じない。下山路の草スベリコースの半ばから雨も止み、御池小屋に預けた登攀道具を再びザックに収めるころには上空高く青空もときおり見えるようになった。広河原から乗り合いバス。車掌のガイドアナウンスで車窓を愉みつつ芦安温泉にて下車しロッジで入浴。再び正午のバスで甲府駅前。駅前の食堂でホウトウうどん+鶏モツ煮込みと生ビール。バス乗車までの3時間ばかりを自由行動とした。



白根御池を起点に三日もかけて北岳を周回しただけに終わった山行だが、いずれ再起・再度のバットレス登攀企画は立てたいと思っている。そして今回初めて南アルプスを歩いての地理的

実感・経験を次回の企画にぜひ活かしたい。また深い森や色とりどりの花々に彩られる南アルプスに魅了され個人的には得たものも多かった。

記■高見沢

[▲目次へ](#)



## バリエーション通信

北岳バットレスに向けて天応黒ナメラ・銀座尾根でのマルチピッチトレーニングが主体と成りました。また、盛夏故に早朝から昼過ぎまでの限られた時間での活動主体でした。加えて梅雨入りで中止が幾度か。決して特定の「雨男」のせいではありません。たぶん・・・

### 2017\_18岩トレの予定と実施

日付	場所	CL	参加者							計
7月3日	月 天応	安達 土屋								2
7月11日	火 天応	安達 土屋	水場							3
7月15日	土 窓が山	高見沢 安達	吉田 水場							4
7月17日	月 天応	安達 土屋	高見沢 吉田	水場 杉尾	小形					7
7月22日	土 天応	安達 土屋	小形 高見沢	吉田						5



## 教育部門通信 No. 4

### 知って得する★ロープワーク

「ロープワーク」は身に着けるべきアウトドア知識の定番中の定番項目。本屋には関連本が山のようにあるけど、そんなにたくさん「結び方」があるの？あったとしてそんなに沢山必要なもの？